

寄贈図書リスト

オリオン星雲, C・ロバート・オデール 著, 土井ひとみ
訳, 土井隆雄 監修, 恒星社厚生閣, A5判, 200頁,
2,625円

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込みください。

e-mail で toukou@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送りください。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

北海道大学大学院理学研究院物理学部門准教授
(宇宙物理学電波観測分野)

1. 准教授公募 1名
2. (1) 所属部門・所属講座, 北海道大学大学院理学研究院物理学部門宇宙物理学研究室
(2) 勤務地, 札幌
3. 宇宙電波観測
4. 宇宙電波観測分野で苫小牧 11 m 電波望遠鏡を運用して研究を行い, ならびに, 全学教育, 学部と大学院宇宙理学専攻において講義, 演習, 研究指導を担当
5. (1) 着任時期, 2012年4月1日以降, 決定後できるだけ早い時期
(2) 任期, なし
6. 博士学位取得者
7. ○履歴書 (通常の履歴事項の後に可能な着任時期を明記すること) ○業績リスト (業績を著書, 学術論文, 代表者としての外部資金, その他に分類し, 主要なものに印を付けること) ○今までの研究・教育の概要 (A4判3ページ以内) ○主要論文5編の別刷またはコピー ○着任後の研究計画と教育についての抱負 (A4判3ページ以内) ○照会可

能者2名以上の氏名と連絡先

上記書類一式を pdf ファイルにして CD-ROM に保存したものも併せて提出すること。

8. 2011年12月15日 (木) まで
9. (1) 提出先, 〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学・理学研究院 宇宙物理学研究室
羽部朝男
Tel: 011-706-2693
(2) 問合せ先, 同上

国立天文台研究教育職員 (重力波プロジェクト)

1. 准教授 1名
2. (1) 重力波プロジェクト推進室
(2) 東京都三鷹市
3. 重力波の研究
4. 国立天文台は重力波検出の実現と重力波による新しい天文学を目指して, 関係機関と協力して LCGT 計画の建設を進めるとともに, 完成後に期待される国際観測網や他の観測手段との連携による重力波天文学展開の準備を進めています。LCGT 計画の推進で中心的な役割を果たすとともに重力波による天文学研究の推進でも指導的な役割を果たせる研究者を求めます。従来の研究分野や実験・解析・理論等の別は問いません。
5. (1) 採用決定後なるべく早い時期。
(2) 任期なし
6. 博士の学位を有するもの
7. (1) 履歴書 (写真貼付), (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とそれを区別し, 共著の主要論文には役割分担を記して下さい), (4) 主要論文のコピー, (5) 研究計画書, (6) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先。

8. 2011年11月30日(水)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台台長 観山正見
- (2) 国立天文台重力波プロジェクト推進室長
藤本眞克 電話 0422-34-3622
E-mail: fujimoto.masa-katsu@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「重力波プロジェクト准教授応募書類」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること、電子メールでの応募は受けられません。応募書類は返却しません。
11. 選考は国立天文台運営会議で行います。国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。例えば、家族に未就学児童や介護必要者がいて勤務時間上の制限が大きい職員について、アカデミック・アシスタントを配置し研究の支援を行う制度があります。

明星大学理工学部総合理工学科(物理学系) 准教授または助教

1. 准教授または助教1名
2. (1) 理工学部総合理工学科(物理学系)
(2) 日野市
3. 天文学・宇宙物理学(観測・実験系)
4. 理工実験実習, プロジェクト, 天体物理, 天体観測, 卒業研究, 等
5. (1) 2012年4月1日 予定
(2) 准教授はなし。助教は3年(再任可 1年, 2回まで。選考のうえ, 准教授への内部昇任の道が開かれています)。
6. 本学の教育方針に賛同し, 学生の教育に熱意のある方。博士の学位を有する方。主に本学で研究を推進できる方。准教授への応募には, 大学院教育も担当できる方。
7. ○履歴書および教育研究業績書(著書, 学術論文(原著論文, 総説・解説), その他に分類し, 査読の有無を明記)(本学指定の用紙)○研究業績のうち, 主な論文・総説等(コピーでも可)5編以内○各省庁・民間研究助成団体等からの外部研究資金の採択状況○本学における研究と教育に対する抱負(2,000字程度)○応募者について問い合わせのできる方(2名)の氏名と連絡先
8. 2011年12月22日(木)(必着)
8. (1) 〒191-8506 日野市程久保2-1-1
明星大学 理工学部長室
- (2) 明星大学理工学部総合理工学科 物理学系

表 合田一夫

Tel: 042-591-7114

e-mail: goda@phys.meisei-u.ac.jp

10. 封筒の表に「物理学系専任教員応募書類在中」と朱書きのうえ, 書留郵便で送付。応募書類は返却いたしません。詳細は必ず <http://www.meisei-u.ac.jp/recruit/index.html> を参照し, 応募書類のうち本学指定の用紙はダウンロードしてください。

国立天文台研究教育職員(理論研究部) 募集期間の延長

本公募は, 2011年7月29日締め切りで公募した国立天文台教授(理論研究部)1名(天文月報2011年6月号314頁)の募集について, 募集期間を延長するものです。すでに書類を提出いただいている方が再提出していただく必要はありません。

1. 教授1名
2. (1) 理論研究部
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学の理論的研究
4. 理論天文学で研究分野を切り開く役割を果たせる研究者を求めます。理論天文学分野の大学院教育や, 共同利用機関の教員としての研究活動(例えば, 理論天文学分野の共同研究や研究会の組織, スーパーコンピュータの共同利用など)に加わっていただける方を望みます。また, 観測天文学と連携した理論研究も歓迎します。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期なし(定年は現在64歳で, 2013年度より65歳になります)
6. 博士の学位を有するか, またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書(現在のe-mailアドレスを必ず記入)
(2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む)
(3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し主要論文5編に下線)
(4) 着任後の研究計画と抱負(共同利用機関の教員としての研究活動に関する記述を含む)
(5) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2011年11月30日(水)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台台長 観山正見
- (2) 国立天文台 理論研究部主任 富阪幸治
Tel: 0422-34-3732
e-mail: tomisaka@th.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「理論研究部 教授応募書類」と朱記

し、簡易書留で送付すること。電子メールでの応募は受けられません。応募書類は返却しません。

11. 選考は国立天文台運営会議で行います。国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。例えば、家族に未就学児童や介護必要者がいて勤務時間上の制限が大きい職員について、アカデミック・アシスタントを配置し研究の支援を行う制度があります。

平成 24 年度国立天文台年俸制特任教員の公募

自然科学研究機構において年俸制職員制度が導入されたことにより、国立天文台では従来の国立天文台研究員（一般枠）を平成 24 年度採用分から廃止し、新たに年俸制特任教員（特任助教）として公募することに致します。この新制度と従来の国立天文台研究員（プロジェクト枠）への併願は可能です。

〈国立天文台年俸制特任教員公募要領〉

年俸制特任教員の応募には国立天文台教員の受け入れ責任者が必要です。自立した若手研究者として国立天文台での研究活動を行っていただきます。受け入れ責任者の部門・プロジェクトに所属していただきますが、基本的に業務デューティは無く、研究や開発に専念していただきます。

1. 募集人員：若干名
2. 着任日：平成 24 年 4 月 1 日以降、ただし平成 24 年 9 月 30 日までに着任していただきます。
3. 任期：原則として着任日より 5 年間ですが、年度ごとに業績評価を受け契約を更新していただくこととなります。任期満了後の再任は原則としてありません。
4. 採用審査：書類および面接により候補者を選考し、運営会議の議を経て特任助教として採用を決定します。
5. 身分・待遇：裁量労働制の常勤職員として月額 50 万円の給与及び通勤手当が支給されます。健康保険、年金については文部科学省共済組合に加入していただきます。ボーナス、退職金の支給はありません。科学研究費補助金の応募資格があります。
6. 応募資格：博士の学位を取得した者又は平成 24 年 3 月 31 日までに取得見込みの者。
7. 提出書類：応募書類は返却しませんので、写しで構いません。(1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 研究論文リスト（査読論文と、その他を区別し、共著論

文の場合は著者名を全て明記すること)、(4) 主要論文の写し（3 編以内各 5 部）、(5) 研究計画書（希望する勤務地と受け入れ責任者を明記のこと）、(6) 推薦書（ある場合のみ添付）

8. 応募締切：平成 23 年 11 月 30 日（火）必着
9. 応募上の注意：封筒の表に「国立天文台年俸制特任教員応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は簡易書留で送付すること。e-mail での送付は受け付けません。

提出先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 観山正見

問合せ先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台研究連携主幹 家 正則

Tel: 0422-34-3520

Mobile: 090-6565-6152

e-mail: m.iye@nao.ac.jp

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

国立天文台研究員

1. 2011 年 6 月（第 104 巻第 6 号）
2. 江口智士（国立天文台重力波プロジェクト室研究生）
3. 2011 年 9 月 1 日

国立天文台助教（理論研究部）

1. 2011 年 3 月（第 104 巻 3 号）
2. 田中雅臣（東京大学 IPMU 特任研究員）
3. 2011 年 12 月 1 日

研究会・集案案内

蛮書和解御用 200 周年記念シンポジウム

本年 2011 年は、文化 8 年に幕府天文方の中に「蛮書和解御用」が創設されてちょうど 200 年目です。西洋の科学技術書の翻訳センターとして発足した蛮書和解御用は、やがて蕃書調所、開成所、大学南校へと組織を変えるにつれて、最新の西洋事情に関する情報センターおよび教育機関として発展していきます。そして

明治維新を迎えると、高等教育を担う大学に生まれ変わり、明治政府の科学技術政策と殖産興業とを学問的に支えました。つまり、蛮書和解御用は、日本の明治近代化に連なる“最初の芽”の役割をしたわけです。この歴史的に重要な事跡を記念して、下記のように記念シンポジウムを開催します。天文学を含む明治科学技術近代化の源流に興味をお持ちの方は、参加自由です。どうぞお出かけください。

〈主催〉洋学史学会

(<http://yogakushi.jpn.org/yogakushi/>)

〈シンポジウムの日時〉12月10日(土)10:30-17:30

〈開催場所〉御茶ノ水、明治大学リパティータワー
1153教室

〈最寄り駅〉JR中央線：御茶ノ水駅、地下鉄：丸ノ内線、千代田線（御茶ノ水駅）、都営三田線・新宿線、半蔵門線（神保町駅）

〈プログラム〉午前の部：

- 趣旨説明：吉田 忠（東北大学名誉教授）
- 天文方と蛮書和解御用：中村 士（帝京平成大学）
- ショメール日用百科事典：松田 清（京都大学）
- 『厚生新編』研究の可能性：八百啓介（北九州市立大学）
- 蕃書調所と日本科学技術史：八耳俊文（青山学院女子短期大学）

午後の部：

- 趣旨説明：横山伊徳（東京大学史料編纂所）
- 蘭書翻訳機関の設立構想と対外関係：松本英治（開成高等学校）
- 昌平黉を中心とした朱子学派と洋学の関係：梅澤秀夫（清泉女子大学）
- 『海国図志』成立の背景：茂木敏夫（東京女子大学）

〈問合せ先〉洋学史学会事務局

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1
電気通信大学電気通信学部
佐藤賢一研究室気付
Tel/Fax: 0424-43-5512
e-mail: yogakushi@yogakushi.jpn.org

名古屋大学大学院理学研究科・名古屋市科学館共催

第10回 坂田・早川記念レクチャー

「太陽系内天体の釣り合いの不思議」

古在由秀氏

（県立ぐんま天文台台長/国立天文台名誉教授）

平成23年12月24日(土)14:30-16:30

名古屋市科学館サイエンスホール

■対象：高校生以上

■定員：300名（申し込み制、多数の場合は抽選）

■受講料：無料（ただし、科学館の観覧料が必要です。
（高校生、大学生200円/大人400円））

■講演会ホームページ：<http://www-ir.u.phys.nagoya-u.ac.jp/sakatahayakawa2011/>

～集まれ、科学者を夢見る若者たち！～

名古屋大学大学院理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻は、素粒子物理学と宇宙物理学の両分野における世界の研究の発展に寄与し、ノーベル受賞者をはじめ、多くの人材育成に関わってきました。坂田・早川記念レクチャーは、坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえつつ、21世紀を担う研究者の発掘および育成を目的として設けられました

第10回となる今回は、天体力学の第一人者である古在由秀氏をお招きします。「太陽系の惑星の軌道は円に近く、軌道面もほぼ一致している」というのはどこまで正しいのでしょうか？天体力学の計算によると、われわれが考えている以上に、惑星・小惑星の運動はいろいろな面白い性質をもっていることがわかるそうです。そのような天体運動に関する多くの不思議についてお話を伺います。

申込方法：以下のいずれかの方法でお申し込みください。（申し込みで寄せられた個人情報、本セミナーの運営に必要な範囲でのみ使用します。）

1) 講演会ホームページ <http://www-ir.u.phys.nagoya-u.ac.jp/sakatahayakawa2011/> から申し込み。

2) 往復はがきに、住所、氏名、高校生・大学生・一般の区分、電話番号、返信部分に申込者の宛名を記入して、

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17-1

名古屋市科学館「坂田・早川記念レクチャー」係まで郵送。

申込締切：2011年12月10日(土)必着

問合せ先：

講演の内容等に関する問合せ

名古屋大学理学部U研

Tel: 052-789-2452 (担当) 金田

e-mail: shlecture@u.phys.nagoya-u.ac.jp

申込方法、会場等の問合せ

名古屋市科学館

Tel: 052-201-4486 (担当) 天文係 持田

会務案内

【日本天文学会理事会議事録】

日時：2011年9月19日（月）18:30-19:50
 場所：鹿児島大学郡元キャンパス理学部2号館
 212号室

出席理事：岡村，杉山，河合，本原，竹田，松尾，
 田代，幸村，茂山，吉川，山田，太田，
 仲野（以上13名）

欠席理事：柏川，梅村（以上2名）

また，半田年会担当幹事および宮下事務長が出席した。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち，議長と署名人の確認がなされた。

議長：岡村定矩

署名人：竹田洋一，本原顕太郎

I-2 前回議事録の確認（資料1，本原）

資料1に基づき，前回（2011年6月18日）の理事会議事録が報告・確認された。

II. 報告

II-1 開催中の年会に関する報告（半田，幸村）

半田年会担当幹事より，鹿児島大学で開催中の2011年秋季年会の開催状況が報告された。発表件数は過去最高の772件で，すでに605名の参加受付済み。懇親会は480余名が予約済みで，これも過去最高となるだろう。引き続き幸村年会理事より，まず半年足らずという非常に短い準備期間で開催までこぎつけた鹿児島大学関係者に感謝の意が示された。記者発表の記事は，毎日新聞及び南日本新聞に掲載されたことが確認されており，読売新聞についてもweb版では確認できている。また，本年会より正会員向け展示ブースを試験的に開設しており，今回はALMAとAstro-Hが出展している。講演登録費の事前支払いは全員完了しているが，完了までには4回の督促を行っており，最後は直接電話をかけて催促した。次回年会では，支払いにクレジットカードを導入することを検討している。

II-2 次回以降の年会の進捗状況

1. 京都大学（太田）

龍谷大学の会場の正式予約は，土日祝日分については大学教職員しかできないため，本年会終了後に中山薫二氏が行う。ただし，内々の承諾は得ているので問題ない。

3学会合同セッションがあるため，ポスターボードは当初の200枚から250枚に増やして予約済み。実施にあたっての京都大学内での役割分担をすすめてゆく予定である。学生アルバイトは京都大学と龍谷大学両方で募集する予定。公開講演会については，様々な波長の望遠鏡の話（光赤外，X線，電波）を考えている。

2. 大分大学（仲野）

公開講演会の会場は，大分駅近くのコンパルホールを2012年9月22日に確保した。会場費は45,000円。また，来年度の公開講演会の科研費申請をそろそろ考えている。会場でのインターネット接続サービスについては大分大学の情報センターが対応してくれそうである。また，保育室についてもカーペット敷きの部屋が確保できそうであることが報告された。これに対し，実行体制をどのように確保するかが問題であることが複数の理事から指摘された。また，日韓合同セッション開催の可能性はあるはずだが，その情報が全く出ていないことが指摘され，河合副理事長が日本側世話人に早急にコンタクトすることとした。開催の可否を年内に決定し，開催する場合には来年3月中には詳細を確定させることが確認された。

II-3 事業担当理事からの近況報告

1. 月報担当理事（資料2）

欠席した柏川月報担当理事より事前に提出された資料を確認した。11月号に，2010年林忠二郎賞，研究奨励賞の受賞記念記事が掲載される。また，複数の新企画が進行しているので楽しみにしておいてほしい。更に来年度の表紙デザインを引き続き募集している。

2. 天文教育委員会（資料3，吉川）

講師派遣プロジェクトは，現在検索システムは止まっているものの，web上に個別対応を行うことを記載してメールによる受付を4月から再開した。これまで10件程度の問い合わせがあり，対応している。講師の一覧表は，現在は開示しておらず，新システムを考案中である。これに対して，講師数がそんなに多くなく，検索条件も複雑ではないのであれば，現在のままでいいのではないか，という意見が出された。

これについては、システム（サーバー）上の問題があるため、何らかのものを新規に作成する必要があることが説明された。これらをどうするかについては、学会のホームページの刷新を検討している特命理事との打ち合わせも近々予定されているのでその場で調整を図ることとした。また、天文教育委員会の範疇ではないが、現在の天文教材委員会の web にはすでに販売停止となっている教材が多数掲載されているので、更新が必要であるとの指摘があり、早急に対応することとした。

3. PASJ (茂山)

現在、機関購読料の改定を検討しており、まず購読機関に値上げについての意見収集を行っている。また、copy editor の公募を天文月報に掲載したものの応募者はなかったことが報告された。これに対して、ten-net にも募集を流した方が良いとの意見が出され、早急に対応することとした。

II-4 入退会報告 (資料 4, 本原)

2011 年 6 月 11 日より 2011 年 9 月 9 日までの間の会員変動が報告された。新入会は正会員 18 名、準会員 11 名で、退会者は 4 名であった。

II-5 年会期間中の募金活動について (追加資料, 本原)

本原庶務理事より、東日本大震災復興支援「集まれ！ 星たち」キャンペーン実行委員より、2011 年秋季年会期間中に年会会場で募金活動を行いたいという申し込みがあり、承認したことが報告された。

II-6 新定款の改定案について (杉山)

杉山副理事長より、天文月報 9 月号に掲載された新定款案及び各種細則についての会員からの意見が紹介され、それを受けてどのような修正・変更を総会で提案するかが説明された。

III. 議題

III-1 非会員の年会講演登録料改定について (追加資料, 本原)

本原庶務理事より非会員の年会参加費、講演登録費を以下のように変更する提案がなされた。

- 一講演あたりの講演登録費を 10,000 円とする (現在 5,000 円)
- ただし、講演を行う場合には年会参加費

(5,000 円) は免除する

結果としては、非会員で講演を行わない或いは一講演のみの場合は支払う金額に変更はないが、二講演以上行う場合については一講演あたり 5,000 円の値上げとなる。

この提案は大きな異論なく承認された。

今回の理事会は 2012 年 1 月 21 日に開催される予定である。

[資料リスト]

- 資料 1 前回理事会 (2011/6/18) 議事録
- 資料 2 月報理事からの近況報告
- 資料 3 天文教育委員会からの報告
- 資料 4 前回以降の新入・退会等会員の変動
- 追加資料 募金活動申込書
- 追加資料 非会員の講演登録料改定について

2011 年 10 月 5 日

議長: 岡村 定矩 印
 署名人: 竹田 洋一 印
 署名人: 本原 顕太郎 印

【日本天文学会評議員会議事録】

日時: 2011 年 9 月 20 日 (火) 12:00-13:10
 場所: 鹿児島大学郡元キャンパス理学部 2 号館 212 号室

出席評議員: 家, 岡村, 海部, 佐藤, 杉山, 須藤, 牧島, 嶺重, 観山, 望月, 山田, 劉, 渡部 (以上 13 名)

欠席評議員: 池内, 伊藤, 井上, 奥村, 坂田, 谷口, 筒井 (以上 7 名)

その他, 河合副理事長, 本原・竹田庶務理事, 松尾・田代会計理事, 幸村年会理事, 宮下事務長が出席した。

なお, 岡村理事長と杉山副理事長は評議員を兼任している。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち, 出席者が 13 名で定足数を満たし, 本会が成立することが確認された。また議長と署名人が以下のとおり選出された。

議長: 家 正則
 署名人: 牧島一夫, 劉 周強

I-2 前回 2011 年 7 月 9 日の評議員会議事録の確認が資料 1 に基づいて行われた。

II. 報告

II-1 理事会報告 (本原)

本原庶務理事より、前日9月19日に行われた理事会の報告がなされた。

II-2 開催中の年会に関する報告およびそれ以降の年会の進捗状況報告 (幸村)

幸村年会理事より、開催中の年会について、急な開催となったにもかかわらず順調に進んでいる旨報告されるとともに鹿児島大学の関係者への謝辞が述べられた。また、今後の年会については2012年秋の年会において日韓合同セッションを行う可能性があることが報告された。これについて、これは元々世界天文年の時、韓国天文学会から國枝前理事長への働きかけがあって始まったものであり、日・韓・台湾・中国4カ国間の合意書も存在しているので積極的に進めて欲しい、日本天文学会レベルでももう少し踏み込んでもいいのではないかと、などの意見が述べられた。

II-3 入退会報告 (資料2, 本原)

2011年6月11日より2011年9月9日までの間の会員変動が報告された。新入会は正会員18名、準会員11名で、退会者は4名であった。これに対し、最近の会員数は総会員数が3,000名前後でほぼ一定しているが、これがなぜ増えないのかという質問が出された。会員数増減の詳細を本原庶務理事が中心となって調査することとした。

II-4 日本学術会議関連報告 (追加資料, 海部)

海部評議員 (日本学術会議会員) より、学術会議の最近の状況について報告があった。新学術会議会員 (第22期, 第23期) が決定し10月から活動を始める。連携会員もテコ入れができたと考えている。また、次期会員への申し送り事項をまとめている。

- 長期展望: 大型計画は総数が43から46に増加した。天文関係では LCGT と Astro-H が進んだので、TMT, SPICA, SKA の3つである。
 - 中規模計画の取りまとめ: 先月ヒアリングを行った。
 - 宇宙空間科学: 内閣府宇宙開発戦略本部での議論の経過が全く公開されないのが大きな問題だが、何か出てきたときは学術会議としても対応したいと考えている。
- など。

II-5 IAU 報告 (岡村, 資料5)

岡村評議員 (日本学術会議 IAU 分科会委員長) より、IAU の最近の状況について報告があった。

- 発展途上国のための IAU の戦略プランが動き始め、regional office を日本の国立天文台内に設置することが決まった。ボランティアを募集している。
- 次回北京で開催される第 XXVIII 回総会に推薦する新会員候補の受付を2011年10月20日より12月25日まで行うので、適任者がいれば情報を流して欲しい。天文月報11月号に掲載し tennet に流す予定。
- 日本人の会員名簿の更新を計画しているが、ちょうど IAU も独自に会員名簿の情報更新を始めた。9月8日に IAU から会員に個別にメールが行っているはずなので確認して欲しい。

など。

II-6 世界天文年 2009 報告書について (渡部)

渡部評議員より、世界天文年 2009 の日本語報告書が完成したことが報告された。評議員には送付したが、ウェブでも公開している (<http://www.astronomy2009.jp/ja/report/report.html>) ので興味のある方はそちらを見て欲しい。

II-7 年会期間中の募金活動について (追加資料, 本原)

本原庶務理事より、東日本大震災復興支援「集まれ! 星たち」キャンペーン実行委員より、2011年秋季年会期間中に年会会場で募金活動を行いたいという申し込みがあり、理事会で承認して現在行われていることが報告された。

II-8 非会員の講演登録費改定について (追加資料, 本原)

本原庶務理事より、前日の理事会で非会員の講演登録費を一件あたり10,000円 (ただし、講演を行う場合は年会参加費は免除) とすることを承認したことが報告された。

II-9 新定款などの改訂案 (杉山)

杉山評議員より、天文月報9月号に掲載された新定款案及び各種細則についての会員からの意見が紹介され、それを受けてどのような修正・変更を総会で提案するかが説明された。

III. 議題

議題は特になかった。

今回の評議員会は、2012年1月28日に開催される予定である。

[資料リスト]

資料1 前回評議員会

資料2 前回以降の新入・退会等会員の変動

追加資料 日本学術会議関連報告

追加資料 募金活動申込書

追加資料 非会員の講演登録料改定について

2011年10月14日

議長：家 正則 印

署名人：牧島一夫 印

署名人：劉 周強 印

【日本天文学会総会議事録】

日時：2011年9月20日（火）17:15-19:20

場所：鹿児島大学那元キャンパス共通教育棟1号館111号講義室

I. 出席者確認

出席者の確認の結果、事前投票総数（会場参加者との重複は除く）が331名、委任状提出者が2名、会場参加は135名だった。なお、出席者のうちで事前投票したものは、事前投票を無効とした。有効出席者総数は468名で、定足数（正会員総数1754名の1/5=351名）を満たしていることを確認した。

II. 議長及び署名人

議長は規約に則り岡村理事長が務めた。次に、署名人として市川 隆、戸谷友則の両氏が選出された。

III. 2010年度日本天文学会各賞授賞式

引き続き、各種授賞式が本原庶務理事の司会で行われた。なお、これは東日本大震災のため中止になった春季総会で3月17日に行われる予定だったものである。

まず岡村理事長より、天体発見賞、天体発見功労賞、天体功労賞が以下の方々に授与された。

- 天体発見賞（7氏）：西村栄男氏（ご子息が代理出席）、西山浩一氏、椛島富士夫氏、池谷 薫氏（欠席）、坪井正紀氏、板垣公一氏、小石川正弘氏
- 天体発見功労賞（9氏）：小嶋 正氏（欠席）、坂庭和夫氏、多胡昭彦氏（欠席）、櫻井幸夫氏、西村栄男氏（ご子息が代理出席）、村上茂樹氏（欠

席）、後藤邦昭氏（欠席）、小島信久氏（欠席）、板垣公一氏

- 天文功労賞（3氏）：[長期的な業績] 門田健一氏、[短期的な業績] 立川正之氏、金子静夫氏受賞者を代表して、小石川正弘氏から挨拶があった。

次に、林 忠四郎賞、研究奨励賞、欧文研究報告論文賞が以下の方々に授与された。

- 林 忠四郎賞：河合誠之氏
- 研究奨励賞（3氏）：鈴木 建氏、長尾 透氏、馬場 彩氏
- 欧文研究報告論文賞（2編）：嶋作一大氏（他共著者16名）（欠席）、石崎欣尚氏（他共著者33名）

IV. 議題

1. 第1号議案：本原庶務理事が資料2に基づき、2012年度事業計画書（案）の説明を行った。賛成多数で承認された。
2. 第2号議案：松尾会計理事が資料3に基づき、2012年度予算書（案）の説明を行った。賛成多数で承認された。
3. 第3号議案：本原庶務理事が資料4に基づき、日本天文学会第19期評議員選挙結果の説明を行った。会員から非改選評議員についても参考資料として示して欲しいという要望が出された。その後、賛成多数で承認された。

V. 報告

1. 日本学術会議報告（海部）
海部宣男氏（日本学術会議会員）より、日本学術会議の活動報告がなされた。新学術会議会員決定（第22期、第23期）、次期天文学・宇宙物理学分科会への申し送り事項の紹介、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故対応、今後の学術会議のあり方などが紹介された。

2. IAU 報告（岡村）
岡村理事長（日本学術会議 IAU 分科会委員長）より以下のような IAU の現状報告がなされた。IAU の戦略プラン「発展途上国のための天文学」の活動が進み始めた。参加するボランティアを募集している。来年8月に北京で開催される第 XXVIII 回総会に推薦する新会員候補の受付を2011年10月20日より12月25日まで行うので、適任者がいれば情報を流して欲しい。また、日本人の会員名簿の更新を計画しているが、ちょうど IAU も独自に会員名簿の情報更新を始めた。9月8日に IAU から会員に個別にメールが行って

いるはずであるが、もしもメールが届いていない場合は岡村理事長まで連絡して欲しい。
IAUのDivision Structureの改訂作業が進められている。

3. 年会実行委員任期途中の交代（本原）
本原庶務理事より、年会実行委員保育室担当の奥村幸子氏（国立天文台）が米倉覚則氏（茨城大学）と交代したことが報告された。
4. 公益法人への移行作業（杉山）
杉山副理事長より、新法人法下の公益法人への移行作業について説明がなされた。まず想定されるスケジュールが示された。2013年11月30日までに移行申請をすませないと解散となることに注意が必要である。その後、定款案、代議員選挙施行細則、会長・副会長・理事・監事選考細則案（資料5）のポイントの説明と、意見収集がなされた。

議員選挙施行細則（案）、会長・副会長・理事・監事選考細則（案）

2011年10月5日

議長：岡村定矩 印
署名人：市川 隆 印
署名人：戸谷友則 印

日本天文学会 2011年秋季年会報告

2011年秋季年会は、9月19日（月）から22日（木）の4日間、鹿児島大学（鹿児島県・鹿児島市）にて口頭講演会場9、ポスター会場4を使って開催された。本年会は、震災の影響で、当初予定していた東北大学（宮城県・仙台市）から鹿児島大学に会場を変更し、日程も3日間から1日延ばして4日間開催された。講演件数は口頭講演が489件、ポスター講演が283件であり、合計772講演で、過去最高の講演数であった。年会参加者は892名であった。ジュニアセッション・天文教育フォーラムの参加者は約140名であった。開催地幹事の半田利弘氏のほか鹿児島大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、順調に進行した。

特別セッションは、以下の2件が開かれた。

「ALMA 特別セッション」

世話人：斎藤正雄（国立天文台）

「LCGT 特別セッション」

世話人：大橋正健（東京大学宇宙線研究所）

[資料リスト]

- 資料1 2010年度日本天文学会各賞
- 資料2 [第1号議案] 日本天文学会2012年度事業計画書（案）
- 資料3 [第2号議案] 日本天文学会2012年度収支予算書（案）
- 資料4 [第3号議案] 第19期評議員候補者名簿
- 資料5 新定款の骨子、新定款（案）新旧対照表、代

座長は次の57名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する（敬称略）。

	9月19日(月)		9月20日(火)		9月21日(水)		9月22日(木)	
	13:00-15:00	09:00-11:00	13:00-15:00	09:00-11:00	13:00-15:00	09:00-11:00	13:00-15:00	
A会場	山岡 均 (九州大学)	寺田幸功 (埼玉大学)	松元亮治 (千葉大学)	根来 均 (日本大学)	堂谷忠靖 (ISAS/JAXA)	米徳大輔 (金沢大学)	浅野勝晃 (東京工業大学)	
B会場	野上大作 (京都大学)	松尾 宏 (国立天文台)	田辺俊彦 (東京大学)	深沢泰司 (広島大学)	土居明広 (ISAS/JAXA)	大須賀 健 (国立天文台)	三好 真 (国立天文台)	
C会場	斉藤嘉彦 (東京工業大学)	柳澤顕史 (国立天文台)	中西康一郎 (国立天文台)	米倉覚則 (茨城大学)	前澤裕之 (大阪府立大学)	川端弘治 (広島大学)	山下卓也 (国立天文台)	
D会場	小林尚人 (東京大学)	本間希樹 (国立天文台)	徂徠和夫 (北海道大学)	石丸友里 (国際キリスト教大学)	藤田 裕 (大阪大学)	松岡良樹 (名古屋大学)	児玉忠恭 (国立天文台)	
E会場	布施哲治 (情報通信研究機構)							
F会場	大坪貴文 (東北大学)	山下卓也 (国立天文台)	平原靖大 (名古屋大学)	高橋弘充 (広島大学)	大橋隆哉 (首都大学東京)	常深 博 (大阪大学)	田代 信 (埼玉大学)	
G会場	中澤知洋 (東京大学)	茂山俊和 (東京大学)	草野完也 (名古屋大学)	原 弘久 (国立天文台)	上野 悟 (京都大学)	増田 智 (名古屋大学)	簗島 敬 (海洋研究開発機構)	
H会場	廣田朋也 (国立天文台)	坂井南美 (東京大学)	立原研悟 (国立天文台)	中村文隆 (国立天文台)	田村元秀 (国立天文台)	住 貴宏 (大阪大学)	中本泰史 (東京工業大学)	
I会場	市来浄興 (名古屋大学)	吉田直紀 (東京大学)	齋藤正雄 (国立天文台)	山本宏昭 (名古屋大学)	村上弘志 (立教大学)	田中邦彦 (慶應義塾大学)	土橋一仁 (東京学芸大学)	

〈記者会見〉

秋季年会の前日、9月18日(火)13:00から、鹿児島大学稲盛会館一階中会議室にて行われた。岡村定矩理事長からの挨拶と日本天文学会秋季年会の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関6社の出席があった。9月20日までに確認できたもので、テレビニュースにて2件、新聞で4件の報道があった。

●研究発表

- (1) 宇宙最大の爆発「ガンマ線バースト」は強磁場ジェットからの放射だった
記者会見出席者: 米徳大輔 (金沢大学)
関連する講演番号: J75a
- (2) 揺れる巨大ブラックホールの大気
—ブラックホールの時空の発見—
記者会見出席者: 加藤成晃, 三好 真 (国立天文台)
関連する講演番号: S40a
- (3) VERA 望遠鏡と鹿児島大望遠鏡で求めた600個のミラ型変光星の立体配置
記者会見出席者: 面高俊宏, 宮之下 亮 (鹿児島大学)
関連する講演番号: N31a

〈特別セッション報告〉

【ALMA 特別セッション: ALMA 東アジア地域センター構想と共同利用について】

ALMA 特別セッションは、年会1日目の9月19日16:45から約1時間半、J会場で行われた。最初に、井口 聖 ALMA 東アジアプロジェクトマネージャーから、最初の共同利用(Cycle 0)開始直前のALMA建設進捗の報告をし、準備が着々と進んでいる報告があった。齋藤正雄 ALMA 東アジアプロジェクトサイエンティストより、今回のCycle 0から次回共同利用のCycle 1までにどんな観測モードが新たに導入され、サイエンスを広げるかの説明があった。そしてALMA 東アジア地域センター(EA-ARC)マネージャーの奥村幸子氏が、最初の共同利用におけるプロポーザルの分布や審査、次回以降の注意点などを報告した。台湾との協力関係や単一鏡と干渉計のコンパインなど質問があったが、京都大学長尾 透氏のコメント「今回Cycle 0直前にEA-ARCが各地で実施した説明会やチュートリアルは電波以外の関係者にとって非常に有用であり、引き続き実施して欲しい」では地域センター関係者の苦勞が報われたであろう。またEA-ARCサイエンティストのDaniel Espada氏がALMA観測所が取得している科学評価用データの意義、これ

までの進捗、そしてアンテナ銀河のモザイクイメージをはじめすでに公開されたデータの紹介をした。参加者は100名を優に超え、会場講演室は立ち見がでるほど盛況であった。電波関係者に限らず、幅広い分野の方が参加していただき、ALMA 共同利用観測への天文学コミュニティの意欲と期待が強く感じられた。
(齋藤正雄)

【LCGT 特別セッション】

LCGT 特別セッションは年会二日目の9月20日に、100名程度の参加のもとにJ会場で開催された。司会進行は東京大学宇宙線研究所の大橋正健が行い、まずLCGTが2010年6月に最先端研究基盤事業に採択されたことが紹介された。

はじめの講演として、黒田和明 宇宙線研究所重力波推進室長よりLCGT計画の概要の説明があった。重力波検出の原理の説明に始まり、LCGT計画の目標と特徴(特に地下設置と低温ミラー)、計画スケジュール、組織図および国際協力の現状について報告された。

続いて、LCGT計画データ解析チーフである大阪市立大学の神田展行から、LCGTのサイエンスについて解説された。この講演では、新しい観測の窓となる重力波を含めたマルチメッセンジャー天文学の構想についての説明に重点が置かれた。

以上の二つの講演に対して、重力波源の角度分解能、装置の稼働率などについて質疑が執り行われた。

最後に、計画代表者である梶田隆章宇宙線研究所長からLCGT計画を推進するにあたって天文コミュニティからの支援が不可欠なことが語られ、閉会となった。最初の重力波観測が着々と近づいていることもあり、重力波に対する天文コミュニティの関心の高さを感じたセッションであった。

(大橋正健)

〈天文教育フォーラム〉

年会初日の9月19日の午後4時45分から1時間半、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが開催され、約130名が参加した。テーマは「震災後のいま、社会に対して私たちが果たすべき役割は？」と題して、3名の講師による講演と会場からの体験談や意見によって構成されたフォーラムを行った。

三つの場面に分けて、東北大学の千葉柁司さんからは「研究教育の現場から」、郡山市ふれあい科学館の安藤享平さんからは「公開施設(プラネタリウム・公開天文台)の現場から」、東京大学の高梨直紘さんから

は「サイエンスコミュニケーションの現場から」というタイトルでそれぞれ東日本大震災直後から現在の状況までを報告していただいた。各講演のあとに、場面ごとに会場からはさまざまな他の体験、考えたことなどの紹介があり、たくさんの「起こったこと」やさまざまな「思い」を共有できたのは大きな成果だったと思われる。

震災直後のまず必要となる復旧の苦勞、努力が各講演から強く伝わってきた。また、徐々に復旧が進むとともに、どの場面でも日常に戻ることが重要でそれが安心感をもたらしてくれること、また、天文学や一般に基礎科学が社会・人間にいかんにか貢献しているかを確かめながら進みたい点が印象に残った。宇宙の観測（観察）が自然科学にも人のこころにも恩恵を与えているということも確認できたと思う。

（柴田晋平・安藤享平）

〈林 忠四郎賞受賞記念講演〉

年会3日目、J会場にて16:20から30分間、2010年度林 忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者は東京工業大学の河合誠之氏で、講演題目は「ガンマ線バーストの系統的研究」であった。講演では、この分野のこれまでの研究の進展と、その中で河合氏らによって、地上望遠鏡と宇宙望遠鏡を組み合わせた観測手法で得られてきた研究成果について、わかりやすく解説していただいた。特に、2005年に発見した赤方偏移6を超えたガンマ線バーストの発見については、発見から論文としてスピーディーに成果をまとめる過程についての詳細を話していただい、聴衆は200名を超える盛況ぶりであった。

〈研究奨励賞受賞記念講演〉

年会3日目の9月21日J会場で15:15からおよそ1時間にわたり、2010年度研究奨励賞受賞者3名の方々に記念講演をしていただいた。一人あたり20分という短い時間ではあったが、それぞれの研究を大学院生時代の経験も交えながらわかりやすく紹介していただいた。受賞者と講演題目は次のとおりである（五十音順、敬称略）。鈴木 建（名古屋大学）「まず太陽からはじめよう」、長尾 透（京都大学）「宇宙化学進化の観測的研究と私」、馬場 彩（青山学院大学）「X線観測による銀河系内宇宙線加速源の研究」。参加者は200名程度と盛況であった。

〈懇親会〉

懇親会は年会3日目の9月21日に鹿児島市宮桜島フェリー桜島丸（サクラエンジェル）にて開催された。

船上での開催は学会史上初と思われる。参加者は事前予約が464名（一般223名、学生217名、子供2名。学生には、アルバイト21名を含む）、当日申込が13名（一般5名、学生8名）に加え、招待者1名の合計478名であった。台風接近が危惧されたが、鹿児島直撃は避けられた。岡村定矩理事長および鹿児島大学の前田芳實理事の挨拶に続き、鹿児島大学の面高俊宏氏の発声による乾杯が始まった。地元の美味しい食材を使った豊富な食べ物と飲み物が供され、上甲板のうどんと鶏飯には長蛇の列ができたほか、焼酎など種々の土産物の試飲や即売も行われた。締めくくりの挨拶として、次期年会開催地理事の太田耕司氏（京都大学）からお言葉をいただいたが、船内音響設備の不備のため一部にしか聞こえなかったのが残念である。初の試みとして事前予約者が公開される受付システムを使用し、食材手配の都合から当日受付を極めて少数に限定した。当日の急な参加が難しくなる欠点はあがあるが、料理を過不足なく手配でき運営側には極めて有益である。おかげさまで好評を得ることができ、活気ある懇親会となった。大学から棧橋までは鹿児島市電2両を貸切の臨時便として運行したが、これも好評だった。好印象につられて鹿児島大学での研究会や共同研究のきっかけになれば担当者としてうれしい限りである。

（半田利弘・倉山智春）

〈保育室〉

保育室は鹿児島大学敷地内のあらたな会館内の和室を使用した。4家族、子ども5名の利用があった。保育者の派遣は株式会社タスクフォースに依頼し、年会実行委員会側は保育室担当が対応した。準備にあたり鹿児島大学今井裕氏ならびに同学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

（峰崎岳夫・奥村幸子）

〈正会員向け展示ブース〉

試験的に正会員向けの展示ブースを開設し、以下の2件の展示が行われた。

「X線天文衛星 ASTRO-H」

世話人：馬場 彩（青山学院大学）、宇野伸一郎（日本福祉大学）、秋元文江（名古屋大学）

「ALMA 相談室」

世話人：西合一矢（国立天文台）、齋藤正雄（国立天文台）、奥村幸子（国立天文台）

〈ジュニアセッション〉

ポスター講演のみを募集し、3件の発表があった。講演へのコメントを収集し、発表者に送付した。ポス

ター会場をご準備いただき感謝する。

(山岡 均)

〈公開講演会〉

研究発表講演の前後の1日を選んで一般市民向けの講演会を毎回開催している。今回は、9月18日(日)13:30~17:00に鹿児島大学稲盛会館ホールにて、「天文館から天の川へ」というテーマで行われた。約140名に及ぶ熱心な来場者に恵まれた。

吉川 真天文教育担当理事の司会により、岡村定矩理事長の挨拶に続き、まず、面高俊宏特任教授(鹿児島大学)の講演「天文館からVERAまで」が行われた。鹿児島の繁華街にある天文館の歴史的由来から高精度の“測量”が行えるVERAまで多様な話題についてユーモアたっぷりの内容であった。次に、田中培生准教授(東京大学)と倉山智春研究員(鹿児島大学)による「ダイエット中の星々」という講演が行われた。星がその質量を宇宙空間に放出するという現象について、いろいろな重さの星の場合が紹介され、興味深い

内容であった。最後に、郷田直輝教授(国立天文台)と半田利弘教授(鹿児島大学)による「現代の銀河鉄道沿線図」という講演が行われた。われわれがいる天の川について、異なる観測手法での研究が紹介され、天の川の魅力が強く伝わってくる内容であった。新たな試みとして、後ろの2件の講演は、対談形式で行われた。各講演後に設けられた質疑応答の時間には熱心な質問が相次ぎ、来場者の関心の高さが伺えた。

前回に引き続き、アンケートを実施し回答数93を得た。アンケートは今後も継続して実施し、今後の宣伝方法やプログラム編成の参考とする考えである。

なお、本企画は、鹿児島大学の共催、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、鹿児島県高等学校教育研究会理科部会、南日本新聞社、MBC南日本放送、NHK鹿児島放送局、KYT鹿児島読売テレビ、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、エフエム鹿児島、鹿児島シティエフエム、FMさつまの後援で実施された。

(吉川 真)

(年会実行委員長: 幸村孝由)

(社)日本天文学会へ2011年6月18日~2011年10月14日に入会された方、退会された方をお知らせします。

正会員入会 (5名)

南 陽仁 大阪府立大・大学院理 (在学)
 青山尚平 名古屋大・大学院理 (在学)
 前林隆之 東北大・大学院理 (在学)

舎川元成 京都大・大学院理 (在学)
 栗田光樹夫 名古屋大・理

準会員入会 (9名)

村田勝寛 名古屋大・大学院理 (在学)
 榑原秀晴 東京都八王子市在住
 酒井勝之 神奈川県横浜市在住
 原田靖男 神奈川県逗子市在住
 高橋秀明 千葉県船橋市在住

千頭一郎 鹿児島県立鹿屋高校・理科
 太田康博 愛知県名古屋市在住
 福迫一良 福岡県北九州市在住
 石曾根一能 長野県松本市在住

正会員退会 (2名)

齋藤澄三郎 瀬川昌男

準会員退会 (2名)

安武伸俊 横川創造

編集委員会より

計 報

2012 年表紙デザイン決定

応募作品の中から編集委員会で選考の結果、Eskaさんのデザインを採用させていただくことになりました。お楽しみに！

青木信仰氏が10月9日に急逝されました。(享年85歳) 慎んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

上野季夫氏が10月19日に急逝されました。(享年100歳) 慎んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

河鱈公昭氏が11月8日に急逝されました。(享年83歳) 慎んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード(5桁の数字と) vol98(5文字)の計10文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

柏川伸成(編集長), 市來浄與, 勝川行雄, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 廣田朋也, 前野将太, 山崎 了
 平成23年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
 Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp
 会費には天文月報購読料が含まれます。

©社団法人日本天文学会 2011 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)